



ぼうさい

〈発行〉

平成29年2月12日

第13号

NPO セーフティネットぼうさい

NPO セーフティネットぼうさい (代表 尾身誠司)

〒948-0003 十日町市本町6の3丁目545-14

電話：025-752-7353 FAX：025-750-3670



E-mail：tbk119@jeans.ocn.ne.jp

平成28年度活動総括

代表 尾身誠司

平成28年の自然災害は、熊本地震、鳥取地震と相変わらず地震活動は活発で未だ避難生活を余儀なくされている方がおられまさに地震国である。地震慣れをして危機感が薄れてきているのに不安を感じている。

新潟県においては豪雨被害などは少なく無事に暮れると思っていた師走、12月22日午前10時20分頃糸魚川駅北で発生した火災は、折からの南風にあおられ、あつという間に飛び火火災を次々と発生させ大火災となった。同じ消防人だった私は上空ヘリコプターからの映像を見てこれは大変なことになることを直感した。大火災の場合地上で消火活動に専念して消火隊は飛び火延焼は考えるが、数十メ

ートル離れたところからの出火を確認することは難しい。とんでもないことになっていることを認識するまで時間がかかったことだろう。消防機関の記者会見で「密集地、強風、消防力を上回る火災」と言われた。過去にも大火を経験している地元の方は火災予防には十分注意していた。しかし、大火災は起こった。

十日町市も明治33年6月10日中心地をほとんど消失する大火を経験した。しかし、120年近く経った現在風化しつつあるような気がする。十日町市でこのような大火が起こらないという保証は全くない。「糸魚川大火」を教訓にし、火災予防はもちろん、警防計画を見直す必要があるような気がする。

NPOぼうさいの今年の活動は「自主防災組織支援委託事業」

件数は36件と減少傾向にあるが、内容に変化が表れている。例年行っている内容から「地区防災計画」に基づく内容に進化してきている。「土砂災害対策」「避難所の設営・運営」は地区で対策を考えておかなければならない事柄であり、ワークショップ形式で検討が行われ始めた。「消火訓練」「救急訓練」は繰り返し行う必要があり毎年継続する事も大切である。

「赤い羽根共同募金助成事業」では4回AED・応急手当訓練を実施し44名の参加を得た。大変好評で手ごたえを感じた。

さらに、県立十日町高等学校の「ゲストティーチャー」防災教育を3年生約100人を対象に4日間行った。群馬大学片田先生の「姿勢の防災教育」これから社会に巣立つ生徒に対して「自分の身は自分で守る」そ

のために「防災講話・AED訓練・身近なものを使用した応急手当・煙の知識と体験」を行った。平日授業にもかかわらず会員の方から指導をもらった。生徒の皆さんも熱心に受講してくれ、やりがいのある防災教育になった。「学校防災教育」は初めてであるが自主防災組織の防災指導が経験になっている。



県立十日町高校防災ワークショップ

今後の防災活動については「地区防災計画」に寄り添った

支援を中心に考えていくことである。自然災害に対して地域の実情を知らないで防災を説くことは適切とは言えない。知識を取り入れることはインターネット等でたやすいが、それだけでは身を守ることはできない。「姿勢の防災教育」を基本とし、地域とともに防災活動を実践していくことを念頭に置いて今年こそ災害の少ない年でありますようお祈りします。

防災士会北信越支部視察 研修会の報告

研修委員長 根津 良夫

去る平成28年11月5日(土)に糸魚川市フォッサマグナミュージアムの視察研修会にNPO ぼうさいとして4名参加してきました。当日は晴天に恵まれ大

変有意義な研修になりました。

まずその日の流れを紹介いたしますと、受付を済ませ即シアターホールにて専門講師による焼山の現状と過去(1974年7月28日)における水蒸気噴火の説明、被害状況とその後の対策監視体制の強化などについて解説と画像を交えた詳細な説明を受けました。聞くところによると、今までの噴火警戒レベル1からレベル2にしなければならぬ事態になりつつあることを心配されておりました。

その後学習室において、噴火の原理と仕組みについての解説と日用品と模型を利用した噴火の起る状況を説明されました。(全員納得の様子) また、マグマ噴火と水蒸気噴火の違いに皆さんまたまた納得。それから展示室の化石や魅惑のヒスイ等を見学し、フォッサマグナシアタ

ーで日本列島が誕生する様子の映像を興味深く見てきました。最後に今回の研修会を計画・実施された方々に感謝致します。また、年末の糸魚川大火で被災された皆様にお見舞いと少しでも早い復旧と復興を心よりお祈り致します。



平成28年度事業総括

「訓練指導に思うこと」

事業委員長 藤木 忠雄

本年も事業活動としてリーダー研修会、自主防災組織業務委託、救急救命活動普及（応急手当講習会）、十日町高校特別編成授業一般教養講座など多種多様な事業が実施された。その中で自主防災組織業務委託を中心とした防災訓練について触れてみたい。

（1）防災計画・防災マップ

作成支援について、DIGが一般的であるが地図の作成等を省略したワークショップは時間的な制約があるところでは有効である。いずれにしても参加者は地域に根差した身近な課題であることから、和気あいあいとした中にも活発な議論がなされる。

（2）消火訓練支援について

トレーナー消火器を用いて的を火災に見立ててやっているが、本物の炎を使ってやると火災の怖さが見えて臨場感が高まる。

また、5〜6人一組で訓練するので競争意識が働くのか、慌てて、ホースを握る前にレバーを握って失敗する人が何人かいる。事前説明では油火災に有効な強化液消火器についても紹介するようにしている。

（3）救命・救助訓練支援について

いて、身近なものを使った応急処置として風呂敷による前腕の吊りや下腿骨折の固定をやっているが、ケガの頻度を考えると今後は頭などキズの手当てで風呂敷が使えるか検証してみたい。また最近は家庭に風呂敷がなくなってきたるので、身近な物の位置づけが今後の課題となる。ますます防災ふろしきの販

売拡大が重要となる。



（4）防災講話支援について

講話のみの訓練も何件かあったが、それだけではただ良い話を聞いたで終わってしまうので、他訓練と抱合せて講話と実技を連携させた方が、より効果的と思われる。また話し手の話術で聞き手にどれだけ浸透させられるかが決まる。ある所では聞き手が水を打ったように静まり返り真剣に聞き入っていた。

（5）避難所運営訓練支援について

いて、本年はリーダー研修会

を受けて初めて北原自主防災会
で自主避難所を対象にした避難
所設営・運営訓練を行った。特
に災害食に興味を示されたとの
こと。北原をモデルとして今後
は各自防災会に展開して行き
たい。

現在までに36カ所の防災会
に延べ119人の皆様から指導
を頂いた。本当に協力ありが
とうございました。どこでも訓
練の終わりには絶大なる拍手を
頂いているが、本当に拍手の分
だけの指導が出来るのか、
これからも切磋琢磨をして行き
たい。



中越地震と避難所

梶沢 英和

平成16年、中越地震発災時、私は消防団員でした。避難所に特化して当手を振り返ってみたいと思います。

発災直後に指定避難所（屋内体育館）に避難された人は少ない印象でしたが、中学校のグラウンドへはかなりの人が避難してきました。余震が続く中で人々は屋内退避という選択を本能的にしなかったものと理解しました。

とりわけ思い出に残っているのは、マイクロバスを所有している人が、集落の人々のために避難所としてバスを提供していただいていたことです。機転が利いた措置であったと感心しました。

翌日あたりから指定避難所に避難する動きが顕著になりましたが、指定避難所から遠い地域の住民は最寄り自主避難所を開設していました。支援物資等は指定避難所にしか届かないので、私が自主避難所への分を持ち出そうとしたところ、指定避難所に避難している人とトラブルになりました。「ここに来ていない人にまで配る必要はない！」と言われたのでした。

またデマにも翻弄されました。4〜5日もお風呂に入れない状態が続き、避難者はどこから仕入れた情報か「吉田の方の消防団は、避難者を近くの温泉施設に送迎してくれているそうだが、中条の消防団はしないのか？」と言われドギマギしました。

十日町市の指定避難所は住民の半分しか収容できません。各集落・町内でいかに自主避難所

を開設・運営してゆくかをこれからは考えてゆかなければならないと気付きました。

指定避難所は『公助』であり、自主避難所は『共助』ではないでしょうか。地域コミュニティの強固な土地柄を生かして、公助に頼らない自主避難所を運営してゆくことが大切であると思います。



避難者名簿作成

自主避難所
運営訓練の
様子



ビニール袋を利用した炊出し



機材の使い方

救急法講習会についての

雑感

村山 幹夫

明けましておめでとう御座います。雪のない過ぎしやすお正月でしたが一転して大雪を感じさせる状況になりました。本年も宜しくお願い致します。さて、私は平成26年度には数箇所の講習会に参加しましたが感想を書いてみます。

私は以前より時間や派遣指導員の数などの制約のある中で、どうしても受講者の人たちに納得していただける内容の講習ができるものかと思ってきました。当NPOも去年は、講習資機材の整備された中で、自分たちで計画した内容、場所での講習会開催なども試みてきました。今後も各集落に資機材を用意して出かけるなど、この方向性は目

指していくべきだと思えました。そんな中で、去年「ひまわりプール」での講習会で「胸骨圧迫とAEDの使用法」の項目指導にあたって、

- ・全体を3個班に分け、
- ・その1個班ずつを更に2つに分け「胸骨圧迫とAEDの使用法」「胸骨圧迫」を、それぞれの指導員が担当する方法を行いました。その結果、私の感じでは受講者の皆さんがある程度納得していただけた講習会であったのではないかと思います。それは、受講者自身が教わりたいという目的意識を持って集まっていたこと。受講者自身が、他の受講者がやっていることを、じつと見ているという時間が少なかったことが良かったのかなとも考えられます。

勿論、今後も同じように実施するためには当日の受講者数や

派遣できる指導員数、その会場のスペース等の問題があることは承知していますが、私たちが目的達成のためにはどうしたらいいかという意識を持ち続ける重要性を感じさせられた日でした。

新しい年が皆さんにとって良い年であることをお祈りいたします。



学生と共に学ぶ

阿部 正子

平成28年12月9日、14日、16日、19日の4日間、十日町高等学校の、学校支援ボランティアにゲストティーチャーとして、参加致しました。これは、将来地域をになう学生の皆さんに、地元のひとつが講師となり、特別授業をおこなうものです。当会のメンバーは防災教育として、防災講話（尾身さん、高橋さん担当）、防災ワークショップ（尾身さん、高橋さん、藤原さん、阿部担当）、救急訓練（尾身さん、高橋さん、福原さん、村山さん、阿部担当）、消火・濃煙体験（尾身さん、高橋さん、根津良夫さん、福原さん担当）をおこないました。私は、ワークショップと、救急訓

練に参加致しました。高校への門をくぐらなかつた自分が、まさか高校生と一緒に学ぶ日がこようとは思いません、新鮮な時間でした。

学校の授業なので時間は正確です。チャイムと共に始まり、終わります。つい先ほどまでおしゃべりしていた学生の皆さんも授業が始まればピタリと止め、真剣な表情でこちらの話を聞いてくれます。ワークシOPPの主旨通り、全員参加型の授業でした。基本的にDIGでは相談はせずに、「ふせん」に意見を書きますが、学生は、仲間とお話しをしていた方が、ひらめくようでした。まとめ方、発表の仕方も巧みで（普段の授業で似たことをするのでしょいか）、さすが高校生だと思いました。「スマホIIスマートフォン」の文字が出てくることに学生らし

さを感じました。救急訓練では最難関ともいえる「風呂敷たたみ」も難無くこなしてくれました。お忙しい中、担当の先生方も参加して下さい有り難うございました。

防災教育には多くのやり方があり、これが絶対というものはないのでしよう。今回の授業を受けた皆さんは3年生、春には、新天地で活躍します。自分の夢を叶えるにもまず、生きていることが絶対条件です。ひとつ限りの命です。誰かが何とかしてくれると思わず、自分の命は自分で守る、地域は地域で守るを基本に、新しい土地で、たとえ災害に見舞われたとしても、必ず無事でいてほしいと願います。



県立十日町高校救急訓練



県立十日町高校濃煙体験

編集後記

病気にかかった時、初めて健康の有難さを痛感するといえます。災害もこれと似ていて、電気や水道が止まった時、自分が多くの与えられたものの中で生活していたことに気付くのです。日常の慌ただしさに追われて後回しにされやすい防災ですが、昨年は天災だけではなく、糸魚川市で大規模火災が起こりました。私の地域では、月に2回、消防団が火の用心に回ってくれます。あの鐘の音を聞き、自分の家から火事を出さぬように戒めています。（正）

「NPOぼうさい」の
ロゴマークを
制定しました。

